

新富町立新田中学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

本校の中学2年生は5教科すべてにおいて県の平均点を下回っている。高い到達度を示す生徒もいるが、平均にほど遠い到達度合いの生徒も多く、その差が大きい。平均を下回っている生徒達の多くは基礎的・基本的な内容の定着が不十分で、自分から積極的に学習に取り組む姿勢が低いために伸び悩んでいると考えられる。したがって、本校のこれからの課題は、学習に主体的に取り組む生徒の育成であり、このことが基礎的・基本的な内容の定着につながっていくと考える。

(2) 意識調査結果からの課題

学びの基礎力の向上のためには自宅での学習習慣の定着が不十分である。また、生きる力において心の豊かさや自己成長力に課題が感じられ、調査全般から自分に自信が持てない生徒の多いことが読み取れる。したがって、意識面での本校のこれからの課題は、自己肯定感を持ち、積極的に諸活動に取り組む生徒の育成である。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

本校は教育目標に「人間性豊かでたくましく実行力のある生徒の育成」を掲げ、その具現化に向けて学力向上は重要な課題として取り組んでいる。特に本年度は小中連携による「知」・「徳」・「体」の一貫教育を推進していく中で学力向上に関わる研究を深めていく。また、生徒指導の充実を学力向上に不可欠の要素としてとらえ、日頃のボランティア活動や委員会活動など生徒の主体性を高める活動を推進している。

(2) 教育課程内の取組

① きめ細かな指導の充実

ア 生徒の興味・関心を高める指導法及び一人一人の学力や特性に応じた支援の在り方の工夫

主体的に学習する生徒の育成を図るためには、全教科で共通したことを意識して行うことが大切である。そこで、全教科の授業で取り組むことができる項目の検討を行い、「本時の目標の提示」、「小さな満足感を大切に励まし」、「生徒の活動の場を増やす取組」、「学習態度の評価」の4項目を考え、このことをすべての教師が意識をして授業を行っている。

イ 自己評価表の作成と実施

生徒の学習への内面的向上を促すためには教師及び生徒が常に意識をすることが大切である。そこで、毎時間評価ができ、週の合計や反省、来週の目標が記入できる自己評価表を作成した。評価項目は「学習に関するアンケート」（6月実施）の結果を基にして、6項目と設定した。そして、授業の終末に各自評価し、帰りの会でその日（金曜日はその週）の集計を行った。

② 各種専門委員会の取組の充実

学習環境を整備するために、学習委員会では授業態度の徹底、生活委員会ではきちんとした身だしなみの徹底、保健委員会では換気の徹底、給食委員会では食育の指導、美化委員会、文化委員会では教室環境の充実といった活動をそれぞれに積極的に行っている。その活動の中で、教師は常に専門委員長と話し合いの場をもつなど、密接に関わり、助言するよう心がけている。

学習態度徹底旬間実施計画			
	学習委員会		
1	ねらい 学期初めの時期に、時間を守るという礼儀を身につけ、はじめをもって授業に取り組めるよう、全教師で取り組み、学習委員会活動の活性化を図る。		
2	期 間 平成18年1月16日(月)～1月27日(金) 10日間		
3	内 容 2分前行動と黙想・礼を徹底させる。		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">評価基準</td> <td>3:チャイム2分前には行動を起こし、全員チャイムの前には着席しており、黙想・礼もしっかりできた。 2:チャイム席、黙想・礼のどちらかが、きちんとできなかった。 1:チャイム席、黙想・礼の両方ともできなかった。</td> </tr> </table>	評価基準	3:チャイム2分前には行動を起こし、全員チャイムの前には着席しており、黙想・礼もしっかりできた。 2:チャイム席、黙想・礼のどちらかが、きちんとできなかった。 1:チャイム席、黙想・礼の両方ともできなかった。
評価基準	3:チャイム2分前には行動を起こし、全員チャイムの前には着席しており、黙想・礼もしっかりできた。 2:チャイム席、黙想・礼のどちらかが、きちんとできなかった。 1:チャイム席、黙想・礼の両方ともできなかった。		
4	留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健体育、選択教科、音楽以外の教科について評価する。 ・ 評価できない教科等については、斜線を引く。 ・ 自習等の場合には、学習委員長と学級委員長が責任を持って評価する。 ・ 教師は、公正・公平に評価するために、授業教室への移動に留意する。 		
5	係活動 <ol style="list-style-type: none"> ① 評価表は毎時間教卓の上に置いて、必ず評価を書いてもらう。 ② 特別教室の場合も忘れずに持って行く。 ③ チャイム2分前に学級委員長・学習委員長は着席を呼びかける。 ④ 学習委員長は、放課後に全校学習専門委員長に、評価表を提出する。 ⑤ 全校学習専門委員長は評価を集計し、掲示する。翌日に、給食時の放送で、各学級の前日の状況を報告する。 		

【学習委員会の取組】

(3) 教育課程外の取組

① 家庭学習の定着

授業で学習した内容を身に付けさせるためには、家庭での学習の在り方も重要になってくる。そこで、家庭学習の定着を図るために、「家庭学習の手引き」を配布し、参観日や地区懇談会を利用して意見交換会を実施した。また、数学科では、基礎的・基本的な内容の定着を図るために、8分程度でできるプリントを作成し、毎日取り組ませている。

② 読み聞かせサークルとの連携

火曜日の朝の時間を利用して、地域の読み聞かせサークルの方々が学年ごとに読み聞かせを行っている。生徒も楽しみにしており、読書への意欲付けになっている。

③ ボランティア活動の推進

本校の学力向上の基本として生徒指導の充実による主体性の向上と心の育成を掲げている。その一環として早朝のあいさつ運動や校庭の掃き掃除などのボランティア活動、また、清掃時間の積極的な取組などを推進しており、心の教育、ひいては学力の向上に寄与している。

(4) 保護者・家庭、地域との連携

① 保護者の実態把握

基礎・基本の定着を図り、自ら進んで学習に取り組む生徒の育成を目指す中で、学習環境を視野に入れた場合、家庭との連携が不可欠である。そして、家庭との連携を深めるための方策を考えていく上では、保護者の家庭学習に対する考え方やその実態を把握しておくことが重要なことになる。そこで、保護者向けにアンケートを作成し、実施した。

② 外部評価の実施と考察

生徒の基本的マナーや社会的なエチケット等に関する状況を把握するために、学校評議委員、元PTA会長、民生児童委員、行政機関、郵便局、地域商店に協力をいただき、7項目からなるアンケートを実施し、考察を行った。

1 新田中の生徒は、友達を大切にしていると思われませんか。

生徒単独で行動する姿よりも、2・3人で連れ立って行動していることから「大切にしている」と判断されているようである。例えば、西体育館使用の際に新田支所でカギを借用する様子や、郵便局を訪れる時の仲の良い様子などが挙げられている。ただ、「わからない」の回答も多く、何らかの形で学校に関わりの深い方々ではあるが、生徒の様子を判断しかねている様子も伺える。

2 新田中の生徒は、周囲の人に思いやりをもって接していると思われませんか。

「思う」の回答の中に、道路等でのあいさつが挙げられている。これは、生徒・保護者アンケートにも共通して見られる事項である。地域の求めるものに「あいさつ」の占める割合が大きいことを表しているようである。

3 新田中の生徒は、地域の活動を積極的に行っていると思われませんか。

評価される項目として、美化活動・神楽等が挙げられている。一方で、行事等にも参加なし、地域活動が少ないので分からない等があり、地区によって生徒の参加の差、地区への連絡周知の差が大きいのではないかとと思われる。

【アンケート項目と考察《一部抜粋》】

3 成果と課題

(1) 成果

- 学力調査結果及び意識調査結果を分析することにより、生徒の実態が把握でき、今後の課題を明確にすることができた。
- 各教科とも、きめ細かな指導の充実を目指す指導法の研修に取り組んだ結果、生徒の興味・関心を高める指導過程を工夫することにつながった。
- 実態調査の課題をもとに自己評価表を作成し、全教科で行ったことにより、生徒の意識の高揚が見られた。また、各教科において学習内容まで評価できる発展させた自己評価表を作成することができ、一人一人の学力や特性に応じた教師の支援につなげることができた。
- 生徒指導面の充実や学習指導面の充実が互いに効果的に影響し合い、学校生活のレベルが高まった。

(2) 課題

- 与えられた課題などにはまじめに取り組むが、自ら進んで学習しようという姿勢が乏しいので、自学への意識向上を今後とも図る必要がある。
- 各教科で共通した自己評価表を活用したが、重視する内容に教科の特性があり、評価項目を細分化する必要がある。
- 家庭や地域、小学校との連携を一層深め、生徒の学力向上を支援するシステムを構築する必要がある。